

において複数教員による指導を実施する。授業形態は一斉授業を基本とするが、子どもの実態や単元の特質を踏まえた多様な形態をとる。

主な研究内容

本校は小規模校で一学級あたりの児童数は10人～18人である。個々の児童の学習状況把握と対応に恵まれている。この利点を生かし、個に応じた指導のための指導方法の工夫改善を進め、授業改善を行っている。

《目標と指導と評価の一体化による授業づくり》

「数学的な考え方」を高める授業展開(中心発問の精選と工夫、思考過程の表現、算数的活動、一人一人の思考に沿った適切な支援と発展、自立解決の場の充実等) 評価基準表の作成と指導を通しての見直し(A規準、C規準の児童への具体的な手だて例、焦点化した評価の工夫等)

単元の指導計画、指導案の作成とその改善(評価計画を明示した指導計画の作成、児童への具体的な手だての記述、学習形態の工夫、T1とT2の役割等)

授業実践を通しての検証(授業記録をもとに発問、手だてや教材が適切であったか)

《SP表(個人カルテ)の作成と活用》

本校規模の学校ではSP表の作成が容易である。SP表により、児童一人一人の学習状況を把握し、個に応じた指導を進める。他単元(同学年内及び他学年)との系統を追った学習状況も把握でき、同系統単元のレディネスにも利用できる。また、誤りやつまずきを基礎タイムや家庭学習の課題に反映させたりもする。更に、学級の児童全体の傾向も把握でき、指導者にとって重点的に授業改善を要する単元発見の資料ともなる。

(3) 研究の成果と課題

学力向上での成果

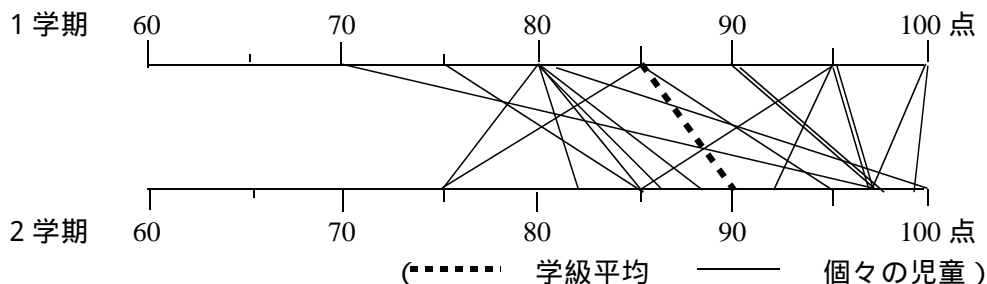
研究の見通し(仮説)に基づき、本年度は「数学的な考え方」を伸ばす意図的な実践を展開した。その成果の状況を本年度重点学年の4年生児童18名を例にとってみる。

〔図〕は「数学的な考え方」観点における個々の児童の状況を1学期と2学期で比較したものである。課題を認める児童もあるが、個々の児童の状況や全体の分布から向上の成果を見取ることができる。学級平均も5点の上昇が見られる。また、〔資料〕からは、課題解決にあたっての児童の態度が良好な状態であることがわかる。

〔図〕では、「表現・処理」に関しては大きな変化はないが、「知識・理解」の向上が顕著で、到達度がBからAに上昇した児童が5名いる。〔図〕は算数科の総合的な学力を表したものであるが、4名の児童が到達度BからAに上昇し学力を向上させている。

以上のことから、「数学的な考え方」の向上と相俟って「知識・理解」も向上し、算数科の確かな学力を培いつつある状況が認められる。

〔図〕個々の児童における「数学的な考え方」観点の学習状況



〔図 〕「表現・処理」「知識・理解」観点の到達度

(表現・処理)

到達度	1学期	2学期
A	14人	15人
B	4人	3人
A	A(12人) A B(2人)	
B	A(3人) B B(1人)	

(知識・理解)

到達度	1学期	2学期
A	12人	17人
B	6人	1人
A	A(12人) B A	
B	(5人) B B(1人)	

〔図 〕総合的な到達度

到達度	1学期	2学期
A	11人	15人
B	7人	3人
A	A(11人) B A	
B	(4人) B B(3人)	

〔資料 〕『「数学的な考え方」を高めることに関わった調査』

問題を自分で考えてみるのはおもしろいですか	おもしろい	どちらともいえない	あまりおもしろくない
	10人(56%)	7人(39%)	1人(5%)
友達の考えを聞くのはおもしろいですか	おもしろい	どちらともいえない	あまりおもしろくない
	12人(67%)	4人(22%)	2人(11%)
いろいろなやり方を考えようとしていますか	している	どちらともいえない	あまりしていない
	12人(67%)	2人(11%)	4人(22%)
前の学年の時と比べて、考えてみようとすることは増えてきましたか	ふえてきた	わからない	へってきた
	14人(78%)	4人(22%)	0人

今後の課題

目標と指導と評価の一体化による授業づくりを推進し、一層の授業改善に結びつけること。

内容の系統性や単元の特性、各単元の基礎・基本をおさえた指導方法・指導形態の工夫改善をさらに進めること。それらを踏まえたより確かな指導計画を作成すること。自ら学ぶ力と確かな学力を育むために、本年度より意図的に取り組んでいる「数学的な考え方」を意識した実践を進めること。ポストテストなどにより児童一人一人の「数学的な考え方」を詳細に把握できるようにすること。

算数の時間での指導にとどまらず、学校での教育活動全体と関連づけ総合的な視点で学力の向上をめざすこと。

算数科での成果を、他の教科等にも生かすこと。

(4) 研究成果の普及の方策

研究会、説明会等の開催

- 4月27日(木) 高城小学校 (内容) 授業参観 (対象) 保護者
- 5月16日(金) 高城小学校 (内容) 授業参観及び懇談会 (対象) 1, 2, 3年保護者
- 5月22日(木) 高城小学校 (内容) 授業参観及び懇談会 (対象) 4, 5, 6年保護者
- 9月9日(火) 高城小学校 (内容) 授業研究 フロンティアティーチャーと学級担任によるTTの授業
(対象) 南部川村、南部町内小学校4年担任
- 10月30日(火) 高城小学校 (内容) フロンティアスクール研究発表会
・研究授業 3年算数「4角形をしらべよう」
・全体会 授業検証、研究報告
・講義 加藤明先生(京都ノートルダム女子大学教授)
(対象) 県内小学校教員 研究集録作成「中間報告の概要」
- 11月9日(日) 高城小学校 (内容) 授業参観 (対象) 保護者(特に父親)
- 2月5日(木) 高城小学校 (内容) 授業研究 フロンティアティーチャーと学級担任によるTTの授業

(対象) 南部川村、南部町内小学校 1 年担任

H P 作成 (<http://www.minabegawa-kyo.jp/takasho/home.htm>)

記載内容 (・ 研究主題、研究内容 ・ 方法の概要 研究授業等)

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |              |   |              |   |      |  |    |
|----------------------|--------------|---|--------------|---|------|--|----|
| 〔新規校・継続校〕            | 1 5 年度からの新規校 | ✓ | 1 4 年度からの継続校 |   |      |  |    |
| 〔学校規模〕               | 6 学級以下       | ✓ | 7 ~ 1 2 学級   |   |      |  |    |
|                      | 1 3 ~ 1 8 学級 |   | 1 9 ~ 2 4 学級 |   |      |  |    |
|                      | 1 3 ~ 1 5 学級 |   | 1 6 学級以上     |   |      |  |    |
| 〔指導体制〕               | 少人数指導        | ✓ | T . T による指導  |   |      |  |    |
|                      | ✓ 一部教科担任制    | ✓ | その他          |   |      |  |    |
| 〔研究教科〕               | 国語           |   | 社会           | ✓ | 算数   |  | 理科 |
|                      | 生活           |   | 音楽           |   | 図画工作 |  | 家庭 |
|                      | 体育           |   | その他          |   |      |  |    |
| 〔指導方法の工夫改善に関わる加配の有無〕 |              | ✓ | 有            |   |      |  | 無  |

**【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】**

算数科において一部教科担任制を取り入れるなどして意欲的な実践を行っており、県内ではこの分野での先進的な学校であると言える。

授業形態については、少人数指導などに固定せず、児童の実態や単元の特質に応じて多様な形態を取れるよう体制を組んでいるところに学ぶべき点がある。